

心豊かな子どもの育成のための保育者間の共通理解を図る取組の充実

東川町幼児センター 学級数13 (園長 伊藤 和代)

I 実践のポイント

- 保育が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に繋がることを意識して行われるよう、指導案に記入し、全職員で共通理解を図る取組の推進
- 園が目指す子どもの姿について共通理解が図られるよう、「心豊かな子ども」を年齢別に具体化し、全職員で共通理解を図る取組の推進

II 実践の内容

1 園としての課題意識

これまで園内では、「心豊かな子ども」を研究主題に位置付け公開保育を中心に研究を進め、互いの保育を参観する中で保育者から「子どもの発達の捉えが十分できているか」、「3歳児以上と3歳児未満の接続は図られているのか」、「子どもが年齢にあった活動を行っているのか」等の課題意識の高まりが見られたことから保育者間の共通理解に基づいた保育の実現を目指し、実践を進めた。

2 実践

(1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を明記した指導計画

指導する際に、遊びを通して幼稚園修了時のどのような姿につながるのか、全保育者で共通理解を図るため、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を指導案の中に明記している。

前日までの園児の姿

【5歳児指導案】

しか組	暑い日は水を遊ぶ遊びを好んで楽しんでいる。プールは遊ぶ人数が多く、思うように動けないもの、小さい児に合わせながら水の感触を楽しんだり、水に顔をつけることに挑戦する姿も見られる。流水設備での遊びは、少人数での川作りから少しずつ遊びが広がっていき、遊びの繋げ方に移行継続しながら、砂場と流水設備を整えて川作り、魚や草などをしている。サッカーは、ワールドカップの影響で、男児たちが盛り上がり、強引に試合をしようとするなど、遊び方についてトラブルになることもあるが、小さい児が来ることで優しくボールを奪取しながら遊んでいる。全体的にプール遊びが中心となっているが、遊びの振り返りを通して、友達との遊びを共有すること、「明日やってみよう」と、様々な遊びへの興味関心が広がっている。	くま組	気温の高い日が続き、プール、水遊びを楽しみにしている。プールに集中してしまう児が多いが、その中で友達と水の掛け合いや、遊んだり歌ごうと試みる姿もあり、思い思いに水の感触を楽しんでいる。色水遊びではクルミの実がまた柔らかく、すりおろすと黄緑色になることに気付く、友達に伝え合いジュース作りをしている。色の出具合を確認し合ったり、キレイな色が出来たことを認め合う姿が見られる。流水設備では砂を掘り進め、友達と協力しながら川作りを行っている。砂や水の冷たさゆい地味さを感じながら、自分のイメージを形にしようとする工夫をしている。様々な遊びの中で異年齢との関わりも増え、年長として自分より小さな児に優しく接する姿が見られる。また遊びの振り返りにより友達との遊びを知り、興味をもったり、翌日の意欲へと繋がっている。
-----	---	-----	--

ねらい	○様々な友達と関わりながら、工夫したり相談しながら遊びを深める。	内容	○友達と気付くや発見を共有したり、思いを伝え合いながら遊ぶ。
●予想される子どもの姿 ○環境構成 ★保育者の関わり・援助			
薬山	●木登り(1) ●木の位置や太さを確認しながら、自分ができる範囲で登っている。 ●危険の無いように、周囲の状況をよく確認しておく。 ★力まかせに挑戦できるように、状況を見守りながら声を掛ける。	鬼ごっこ(1・4)	●少人数から始まった鬼ごっこに次々と入っていったり、鬼になって捕まえられることなく「ゆめ」と遊びを続けようとする児がいる。 ●鬼決めや鬼ごっこの内容で友だちと意見が合わないこともあるが、自分で決まればけんけんや話し合いをして決めている。 ○鬼の無いように人数に合わせて、適の広さを調整したり、必要に応じて棒を引く。 ★異年齢で遊ぶ時には、小さい児も楽しめるようなようなルールが良いか、一緒に考える。
畑	●ワールドカップが盛り上がり、試合をしたがる児もいる。 ●シュート練習をしたり、試合をしたがるがサッカーの中でもやりたい遊びがあり、友達とトラブルになることがある。 ○サッカーボール、ゴールの用意をしておく。 ★トラブル時には自分たちで解決できるように考え方のヒントを伝えたり、話し合いの場を作るようにする。 ★異年齢でも楽しく遊べるように、遊び方を一緒に考えていく。	色水遊び(6・7・9)	●色水に染み付いた服や木の葉を綺麗に洗い、友達に分けてあげようとする児もいる。 ●友達と一緒に、また一人で紙やビニールの裏、クルミの殻等をすり潰しジュースを作っている。 ●作った物を洗い、ごっこ遊びをしている児もいる。 ○必要に応じて机の拭き掃除の指導をする。 ★友達と真似を合ったり、教え合うことで遊びが楽しくなったり広がっていくようにする。 ★作った物を洗い、ごっこ遊びに発展させる等自分で遊びを進める楽しさを感じられるようにする。
物置	●プールの水や水筒、水筒の掃除をしながら準備する。 ★危険のないように遊びを促す。 ★水の危険性を子どもたちに伝える。 ★体が濡れても遊び続けようとする児がいるので、体調に留意する。	砂場・流水設備遊び(3・6・7)	●友達と声をかけ合い一緒に川やトンネルを作っている児がいる。 ●遊びができていくことに気付く、遊を無視して楽しんでいる児もいる。 ●遊び道具を利用して川作り、掘りの砂場を整えようとする継続している。 ○道具を取り出しやすいように整理しておく。 ○子どもたちの気付きに即して、必要な用具を用意する。 ★川やトンネル作り等、友達と声を出し合いながら協力したり、工夫しながら遊びが広がっていく楽しさを味わえるようにする。 ★周りの児が友達との遊びに気付くように、保育者も一緒に遊び、楽しさを伝える。
花壇	●花壇	●花壇	●花壇
テラス			
評価	○様々な友達と関わりながら、工夫したり相談しながら遊びを深めることができた。		

- 【10の姿】

 - 1 健康な心と体
 - 2 自立心
 - 3 協同性
 - 4 道徳性・規範意識の芽生え
 - 5 社会生活との関わり
 - 6 思考力の芽生え
 - 7 自然との関わり・生命尊重
 - 8 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
 - 9 言葉による伝え合い
 - 10 豊かな感性と表現

「色水遊び」については、10の姿の「6 思考力の芽生え」「7 自然との関わり・生命尊重」「9 言葉による伝え合い」を意識した保育に努めるよう、保育者間で共通理解を図ることが可能となった。

同じ遊びであっても意識する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は年齢によって異なり、例えば、3歳児では「9 言葉による伝え合い」の代わりに「10 豊かな感性と表現」を位置付け、保育者全員の共通理解の下、保育にあたっている。

(2) 心豊かな子どもを育むための保育者の連携

園の教育目標である「げんきな子・やさしい子・楽しくあそぶ子・考える子」の育成に向け、園の研究主題を「人や自然と関わりながら心豊かな子どもを育むための保育者の在り方」と設定した。そこで、「心豊かな子ども」とは、どのような子どもの姿かを保育者全員で検討し、「人の気持ちに気付いて『ありがとう』や『ごめんね』が言える子」、「楽しいことや嬉しいことを表現できる子」、「自然のおもしろさを感じられる子」の3つにまとめ定義した。

また、園内で実践する中で、保育者間での子どもの発達の捉え方について相違が見られたことから、「心豊かな子の3つの定義」を学年別に整理することで、保育者の共通理解及び連携を図った。

【「心豊かな子どもの3つの定義」】

3つの定義	人の気持ちに気付いて「ありがとう」や「ごめんね」が言える子	楽しいことや嬉しいことを表現できる子	自然のおもしろさを感じられる子
5歳	<ul style="list-style-type: none"> 相手の表情や言葉、様子から思いに気づき、感じることができる。 相手の思いに気づき、必要な言葉を考えて言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な感情を言葉や表情、しぐさや行動で表すことができる。 様々な感情を保育者や友達と共感し合える。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然や草花、虫への興味関心をもち、自ら探求できる。 四季を感じて、その中で変化する遊びを楽しめる。
4歳	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちに気づき、必要な言葉を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと同じ遊びをする中で、一体感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 四季を感じ、季節ごとの遊びを楽しむ。
3歳	<ul style="list-style-type: none"> 保育者に仲立ちされながら、相手の思いを知り、気持ちを言葉で伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や保育者に様々な感情を言葉や表情で表す。 友達や保育者と一緒に、同じ遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 四季を知り、季節ごとの遊びに興味関心をもつ。 保育者や年長、年中が行っている遊びに興味をもち、真似る。
2歳	<ul style="list-style-type: none"> 保育者に促されながら、自分の思いを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達と遊びを共有する。 経験した出来事などを保育者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 草花や虫に気づき、興味をもつ。
1歳	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の仲立ちによって、相手の気持ちを感じることができる。 保育者に促されながら、自分なりの表現ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な感情を表すことができる。 様々な感情を保育者や友達に伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な自然物に触れて、感触を楽しむ。
0歳	<ul style="list-style-type: none"> 人に関心がもてる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の欲求を素直に求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの様々な物に興味をもてる。

この3つの定義を基に、公開保育を中心に研究を進め、互いの保育の参観を通して、子どもの発達の捉え方や発達の段階に応じた活動になっているかなど、子どもの姿から保育者の連携及び保育の改善を推進することができた。

III 成果と課題

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に繋がることを意識して保育が行われるよう、指導案に記入し、全職員で共通理解を図ることにより、保育のねらいが明確化されるとともに、遊びと遊びのねらいが関連付けられるようになるなど、保育の充実が図られた。
- 園が目指す子どもの姿について共通理解が図られるよう、「心豊かな子ども」を年齢別に具体化し、全職員で共通理解を図ることにより、子どもの姿から保育の改善が図られるとともに、保育者同士の連携がより一層深まった。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」で保育のねらいを明確にし、「心豊かな子ども」を設定することで目指す子どもの姿が明確になったが、これらに加え子ども一人一人の特性を把握し、よりよい環境構成や援助の工夫を図るなど、指導の改善をさらに進める必要がある。